

# 咲き誇る、古都の名建築

「伊予の小京都」大洲は、時代を語る建造物の宝庫。  
贅を尽くした庵、古色蒼然とした名刹、産業史を伝える煉瓦の建物。  
いずれもその時代のまちの有り様を私たちに教えてくれる時の証人だ。  
花のように咲き誇る、伊予の小京都の名建築を訪ねよう。

## Famous historical architecture

Befitting its reputation as the "Little Kyoto of Iyo," Ozu is a veritable treasure house of historical architecture. Extravagant monasteries, ancient Buddhist temples, brick buildings that tell of the history of local industry... all of these bear witness to the passage of time by teaching us what the city was like in times long past. Don't miss the famous buildings of Iyo's Little Kyoto, which bloom like so many flowers.



## 肱川随一の景勝地にたたずむ

### 臥龍山荘

肱川随一の景勝地といわれる臥龍淵は、大洲三代藩主・加藤泰恒が「蓬萊山が龍の臥す姿に似ている」と命名したという逸話がある。その臥龍淵を望む場所にたたずむのが臥龍山荘だ。ここにはもともと文禄年間（1592～1596）に藤堂高虎の重臣であった渡辺勘兵衛が造った庭園があった。泰恒公は、吉野の桜や龍田の楓などを植え、庭園をよりいっそう趣深いものにしたといわれている。以来、この場所は歴代藩主の遊賞地となり、殿様の心を慰めていた。

明治時代、この庭園にはさらに手が加えられた。木蠟や絹の貿易で財をなした大洲市出身の実業家・河内寅次郎が、構想10年、工期4年、9000人の人手を費やして、臥龍院、不老庵、知止庵の3つの建造物を築いたのだ。設計は京都の茶室建築家・八木甚兵衛、建物の細工は京都千家十職、施工は京都や大洲の名工があたり、書画も当時

の大家に依頼するなど、そうそうたる面々が設計や建築に携わった。母屋の臥龍院は、端正な数寄屋造りの建物だ。桂離宮や修学院離宮、梨本宮御常御殿などを参考にしたといわれており、欄干の透かし彫りや屋久杉の天井など、細部に至るまで匠の技が活かされている。同じく数寄屋造りの不老庵は、肱川に迫り出すような舞台造りになっており、庵そのものを船に見立てている。月夜には、網代張りの一枚天井に川面の月光が反射するような工夫を施すなどまさに粋を極めた建物だ。知止庵は当初、浴室として建てられたが、昭和24年に改装して茶室となった。庵名の「知止」は、中江藤樹の学問に対する考え方に由来する。

さらに、神戸の庭師「植徳」が10年がかりで施工した庭園は、富士山や神楽山、肱川を借景に、老樹や飛び石、苔を効果的に配置した名園として名高い。